

気候変動に対応した 勢田川流域等浸水対策実行計画への見直しに向けて



勢田川流域等浸水対策
緊急プロジェクト

勢田川流域等浸水対策協議会
令和7年3月14日

河川計画の見直し（近年、水災害が頻発1/2）

- 短時間強雨の発生増加や台風の大型化等により、近年は浸水被害が頻発しています。

毎年のように全国各地で浸水被害が発生（令和元年～4年）

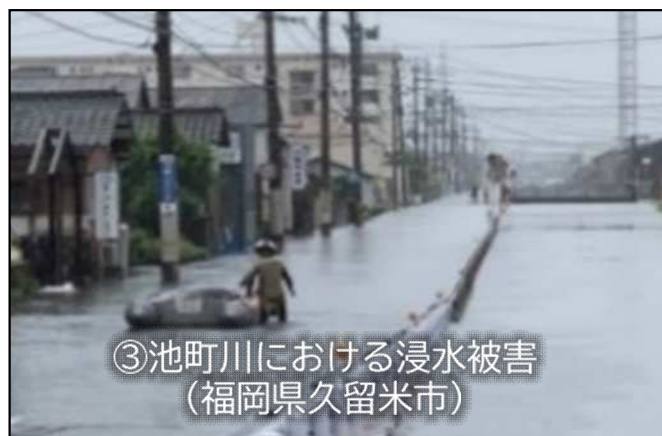
【令和元年東日本台風】



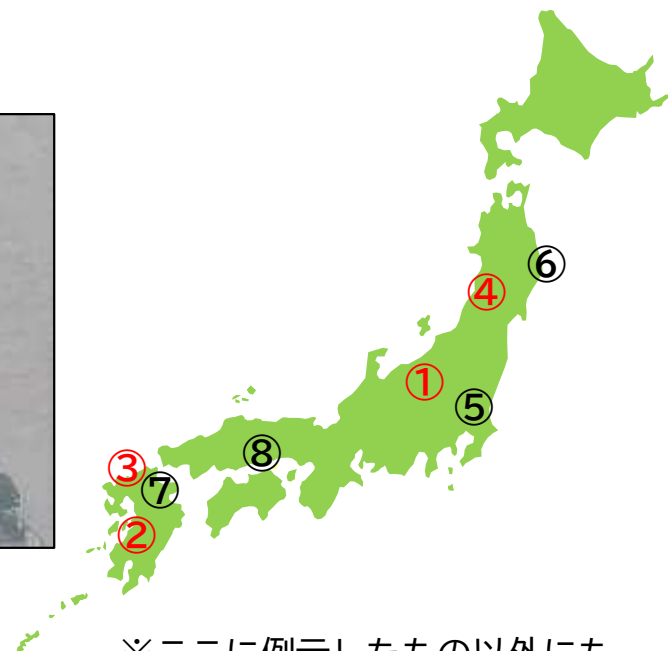
【令和2年7月豪雨】



【令和3年8月からの大雨】



【令和4年8月からの大雨】



※ここに例示したもの以外にも、全国各地で地震や大雨等による被害が発生

河川計画の見直し（近年、水災害が頻発2/2）

毎年のように全国各地で浸水被害が発生（平成27年～30年）

【平成27年9月関東・東北豪雨】



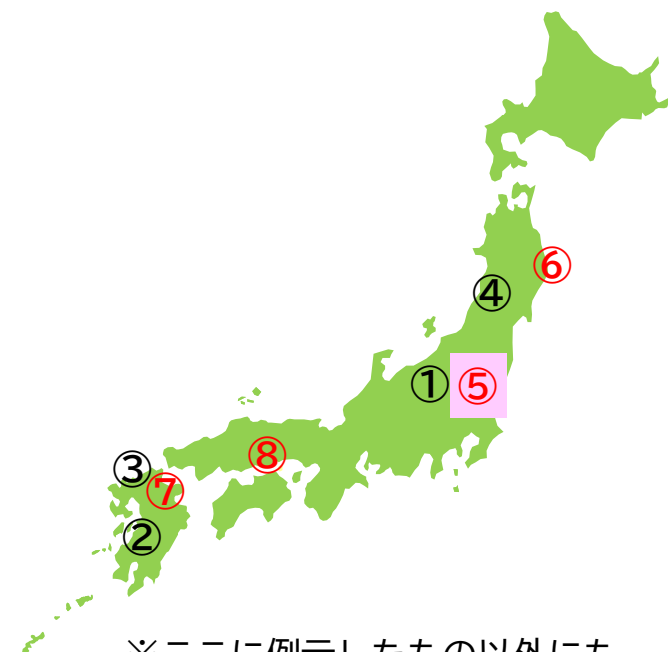
【平成28年8月台風第10号】



【平成29年7月九州北部豪雨】



【平成30年7月豪雨】

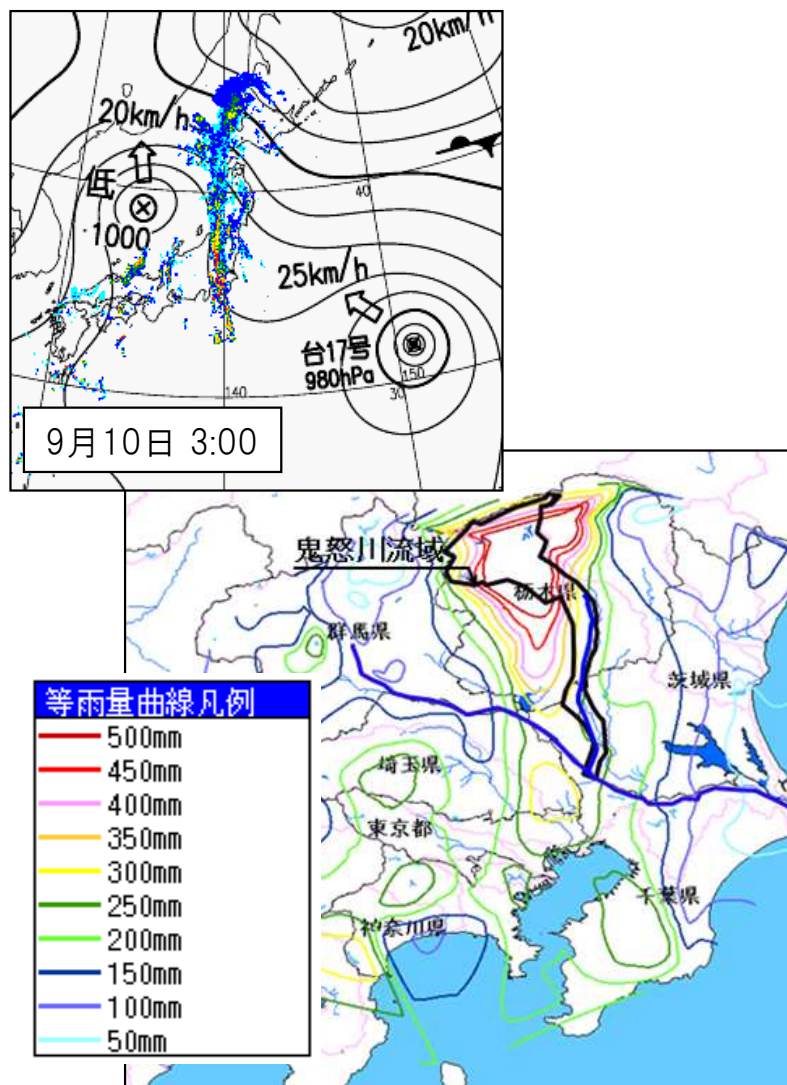


※ここに例示したもの以外にも、全国各地で地震や大雨等による被害が発生

河川計画の見直し（平成27年9月関東・東北豪雨1/2）

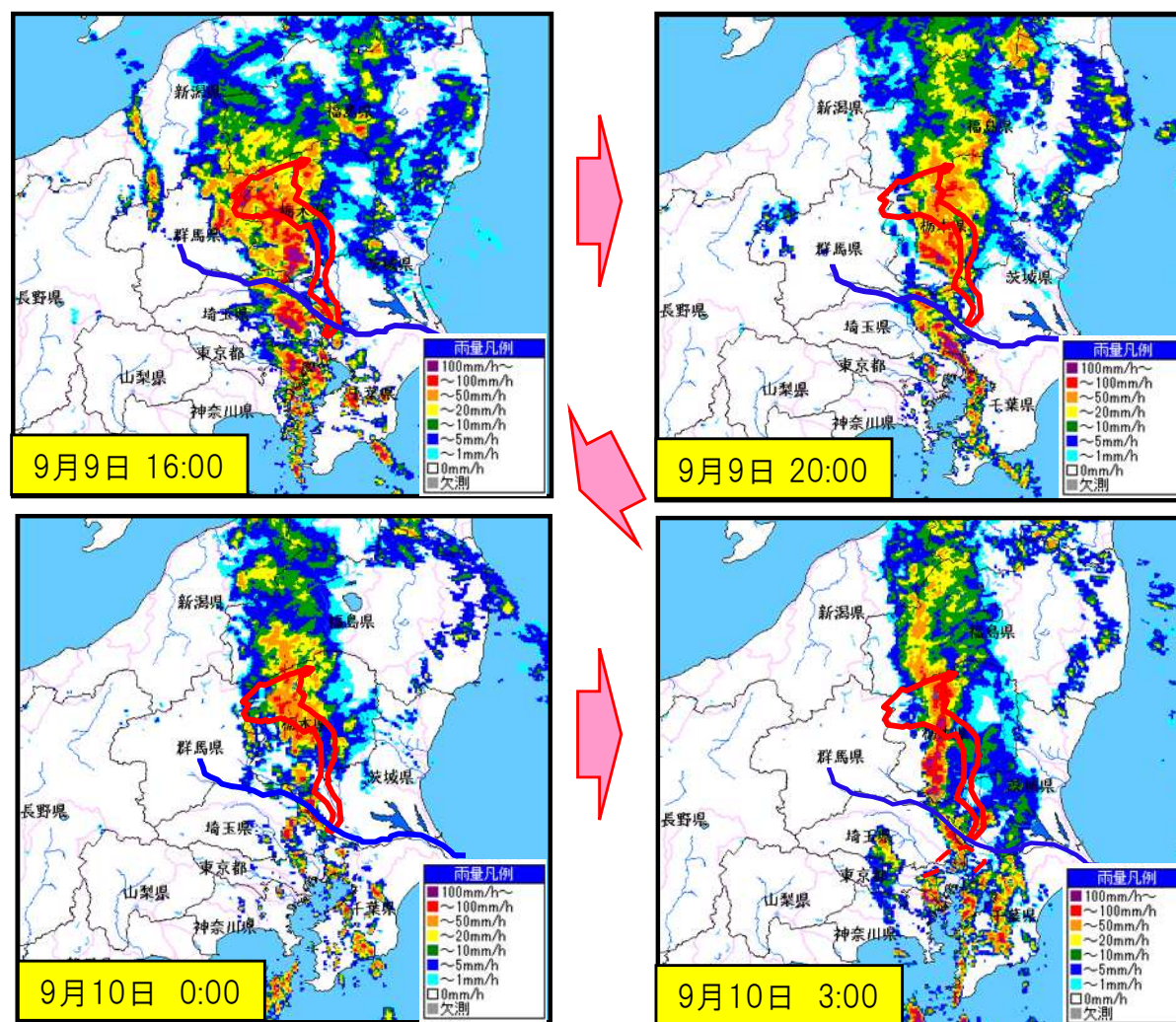
- 台風18号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、記録的な大雨となりました。

気象・降雨の概要



等雨量線図(8日～10日累加雨量)

レーダ雨量図



河川計画の見直し（平成27年9月関東・東北豪雨2/2）

- 堤防決壊等に伴う氾濫により、常総市の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水し、常総市役所も孤立しました。

鬼怒川の氾濫による浸水状況

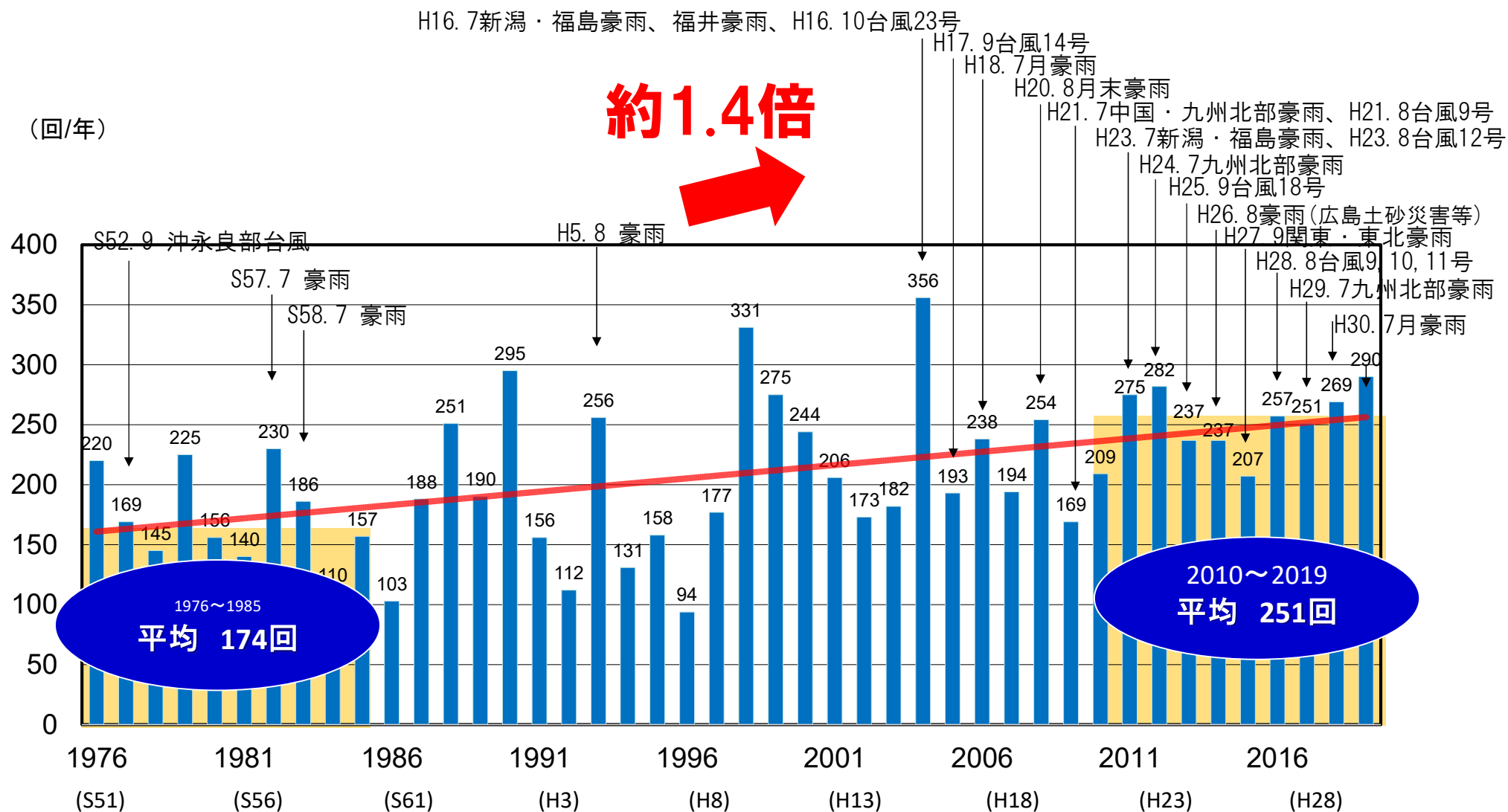


- : 氾濫域の最大総浸水面積(40km²)
国土地理院公表資料
- : 決壊箇所
鬼怒川左岸21.0km
- : 浸水範囲内の建築物

河川計画の見直し（近年、雨の降り方が変化）

- 近年、時間雨量50mmを超える短時間強雨の発生件数が増加するなど、気候変動の影響により、水害の更なる頻発・激甚化が懸念されています。

1時間降水量50mm以上の年間発生回数（アメダス1,000地点あたり）



河川計画の見直し（河川計画見直しの位置付け）

- 河川整備基本方針・河川整備計画については、「過去の降雨実績に基づく計画」から「気候変動による降雨量の増加等を考慮した計画」に見直すことにしています。
- 勢田川においても、今後、気候変動を考慮した計画に見直していくことになります。

第109回河川整備基本方針検討小委員会資料

気候変動を踏まえた計画へ見直し

治水計画を、過去の降雨実績に基づく計画から
「気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画」に見直し

これまで

洪水、内水氾濫、土砂災害、高潮・高波等を防御する計画は、
これまで、過去の降雨、潮位などに基づいて作成してきた。

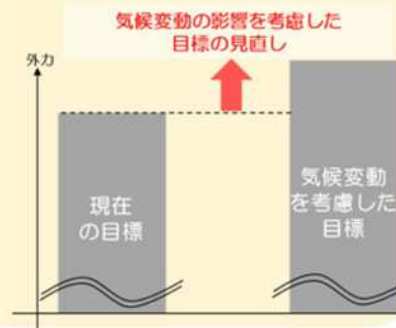
しかし、
気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると
現在の計画の整備完了時点では、実質的な安全度が確保できないおそれ

今後は

気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇相当	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

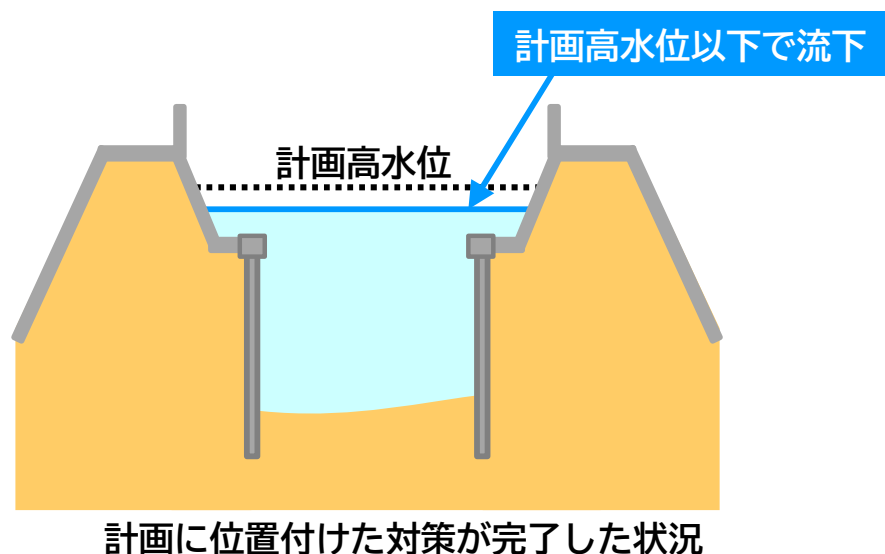
※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ（パリ協定が目標としているもの）



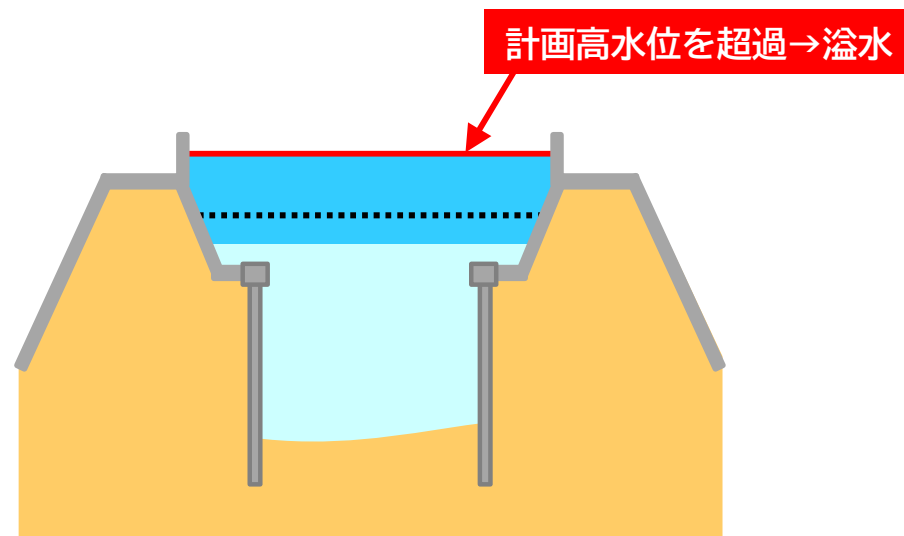
気候変動への対処（国土交通省管理区間の対策の考え方①）

- 気候変動を考慮した外力が流れ込んだ場合、現在、計画に位置付けている対策が完了したとしても、水位が計画高水位を超過し、危険な状況となります。
- そのため、河川計画の見直しにおいて、新たな対策を追加していく必要があります。
- 気候変動を考慮した外力に対処するために追加する新たな対策の方向性としては、「①堤防を高くして防御」、「②水位を下げて防御」の2つの考え方があります。

現行計画での目標流量流下時



気候変動を考慮した流量流下時



対策の考え方
①堤防を高くして防御
②水位を下げて防御

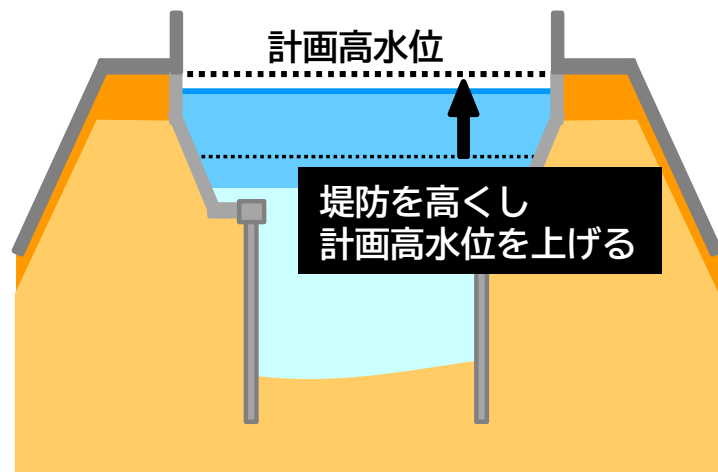
気候変動への対処（国土交通省管理区間の対策の考え方②）

- 「①堤防を高くして防御」を選択した場合、勢田川に流れ込む支川の水位も上昇するとともに、内水も排除しにくくなります。
- 一方、「②水位を下げて防御」を選択した場合、支川は勢田川に流れ込みやすくなるとともに、内水排除も容易となります。
- その結果、支川の対策や内水・下水処理の整備規模を縮小することが可能となれば、支川や内水対策等の範囲を広げ、より広域的に安全性を高めることができます。

①堤防を高くして防御

対策の例

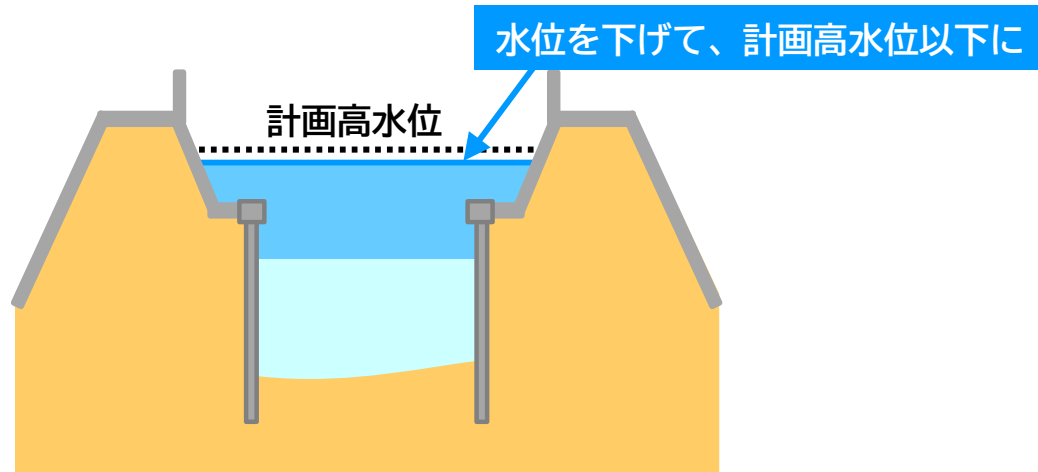
- 堤防の嵩上げ



②水位を下げて防御

対策の例

- 河道の掘削
- 引堤
- 流量の貯留
- 勢田川排水機場による迎洪水位低下対策



気候変動に対応した勢田川流域等浸水対策実行計画への見直しに向けて

- 気候変動に伴う洪水の激化が懸念される中、勢田川流域においても、国・県・市が協働し、気候変動に対処していく必要があります。
- そのため、「勢田川流域等浸水対策実行計画」に基づく対策を引き続き実施しつつ、国・県・市が連携しながら、気候変動への対処策を検討するとともに、「勢田川流域等浸水対策実行計画」についても、気候変動を考慮した計画に見直していきます。

勢田川流域等浸水対策実行計画の再構成（気候変動への対処）

次期短期計画の更新

令和8年度から当面5年
程度で実施する内容を
具体化した短期計画を
令和7年度中に定める

↓
実行計画に反映

気候変動に対応した中長期計画立案のコンセプト

国土交通省
気候変動を考慮した外力に対する
勢田川の水位低下対策について検討

水位低下対策の
具体を踏まえ

三重県
勢田川の県管理区間及び
支川の対処策を検討

伊勢市
内水・下水の処理計画を
再構築

気候変動に対応した勢田川流域等浸水対策実行計画に見直し

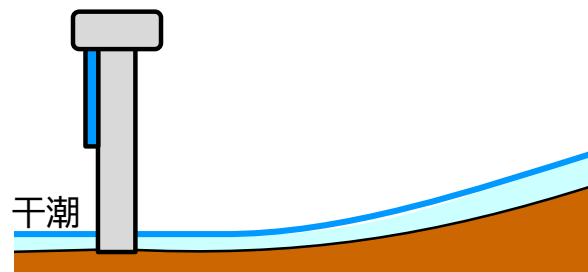
参考：勢田川排水機場による迎洪水位低下対策とは

- 勢田川は、水面勾配が緩く（直轄上下流端のHWLの差分80cm）、満潮時には、全川的に水位が上昇する状況です。
- 勢田川防潮水門及び排水機場は、高潮時に稼働させる施設ですが、現在、洪水前に稼働し、迎洪水位を下げることで、洪水中の河川水位を低下させるとともに、内水等の排除をより容易にする取り組みを試行中です。
- 引き続き試行を重ね、迎洪水位低下対策として位置付けていく予定です。

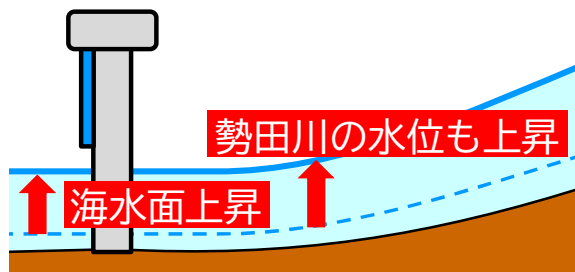
迎洪水位低下対策のイメージ

通常

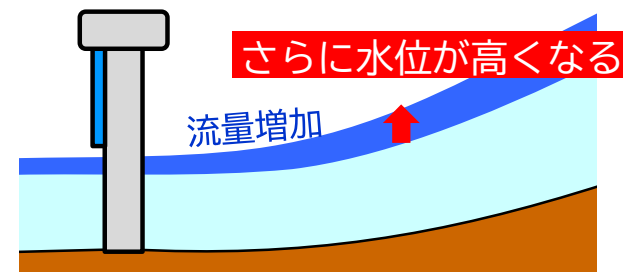
干潮時



海水面上昇



海水面が高い状態で河川流量増加



迎洪水位低下対策の試行

干潮

ゲートを閉める

